

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-322695

(43)Date of publication of application : 10.12.1998

(51)Int.Cl.

A47G 9/02
C04B 35/00
C04B 38/00

(21)Application number : 07-133773

(71)Applicant : AIMIKUSU:KK

(22)Date of filing : 31.05.1995

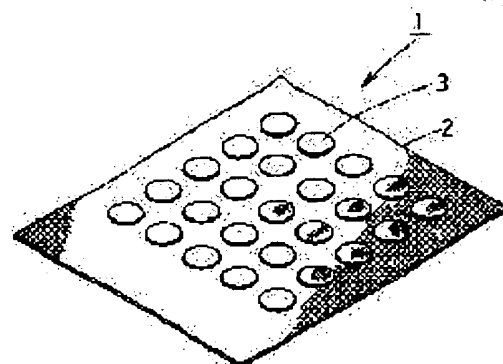
(72)Inventor : TSUBOI SUSUMU

(54) BEDDING

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide bedding which can improve the physical condition of a person during sleeping, with the use of a phenomenon of an electronic path, which can eliminate the necessity of servings such as supply of a power and replacement of the content or the like, which as no risk of failure or malfunction, and which can surely promote health.

CONSTITUTION: Several circular porous ceramic layers 3 are formed on the outer surface of a fabric constituting a sheet 1. The ceramic layers 3 contain at least one selected among 26 kinds of zinc, aluminum, sulphur, yttrium, potassium, nitrogen, chromium, bromine, carbon, vanadium, lithium, iron, copper, sodium, nickel, rubidium, fluorine, magnesium, manganese, iodine, calcium, oxygen, chlorine, titanium, phosphorus and silicon.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.01.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 11.06.2002

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-322695

(43) 公開日 平成8年(1996)12月10日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 G 9/02			A 4 7 G 9/02	P
C 0 4 B 35/00			C 0 4 B 38/00	3 0 3 Z
	3 0 3		35/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-133773

(22) 出願日 平成7年(1995)5月31日

(71) 出願人 595078297

株式会社アイミクス

京都市中京区烏丸通夷川東入西九軒町291
番地

(72) 発明者 坪井 進

京都市左京区北白川丸山町1の44

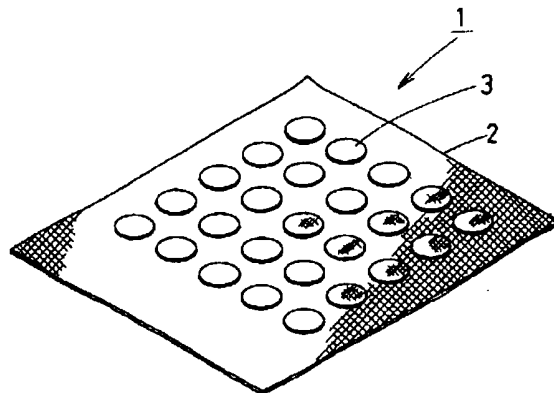
(74) 代理人 弁理士 杉本 勝徳 (外1名)

(54) 【発明の名称】 寝 具

(57) 【要約】

【目的】 電子経絡の原理を利用して、睡眠中に体調を整える作用のある寝具に関するものであり、電源の供給や内容物の交換等の手間が不要であり、且つ、故障や誤動作の心配が全くないとともに、確実な健康促進効果の得られる寝具を提供すること。

【構成】 シーツ1を構成する布地2の表面には多孔質セラミック層3が多数の円形状に形成されている。多孔質セラミック層3には、亜鉛、アルミニウム、硫黄、イットリウム、カリウム、窒素、クロム、臭素、炭素、バナジウム、リチウム、鉄、銅、ナトリウム、ニッケル、ルビジウム、フッ素、マグネシウム、マンガン、ヨウ素、カルシウム、酸素、塩素、チタン、リン、珪素の26種類の元素のうち、少なくとも何れか一種類を含有している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 亜鉛、アルミニウム、クロム、バナジウム、鉄、銅、ニッケル、マンガンの何れかの純度99.9%以上の高純度金属元素と、硫黄、窒素、炭素、フッ素、ヨウ素、酸素、塩素、リン、珪素の何れかの化合物を粉末処理して生成したセラミック層が、布地の少なくとも一部に形成されていることを特徴とする寝具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、寝具に関するものであり、特に、電子経絡の原理を利用して、睡眠中に体調を整える作用のある寝具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、電極を用いて微弱電流を供給するように構成された健康器具や、睡眠中に身体が健康になるという健康寝具として、磁気治療効果や芳香成分による効果を意図した、布団やシーツ、もしくは枕等の種々の寝具が提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、上述したような従来の電源装置や電子回路を要するものは、使用中に電源を接続しておかなければならないという問題や、電子回路の故障の問題等があるため、安心して使用するには問題があった。また、磁気効果や芳香成分による効果を意図したものは、効果の持続性が弱いために、頻繁に磁性体を交換したり、芳香成分を交換したりしなければならないという手間を要するという問題があった。

【0004】 本発明は、電源の供給や内容物の交換等の手間が不要であり、且つ、故障や誤動作の心配が全くないとともに、確実な健康促進効果の得られる寝具を提供することを目的としてなされたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の寝具においては、亜鉛、アルミニウム、クロム、バナジウム、鉄、銅、ニッケル、マンガンの何れかの純度99.9%以上の高純度金属元素と、硫黄、窒素、炭素、フッ素、ヨウ素、酸素、塩素、リン、珪素の何れかの化合物を粉末処理して生成したセラミック層が、布地の少なくとも一部に形成するという手段を講じたものである。

【0006】 なお、元素番号の小さい金属は酸化しやすいので化合物として使用する。

【0007】

【作用】 上記手段を講じた本発明の寝具によれば、図1に示すように、波長が7ミクロンから12ミクロンまでの電磁波が強く放射される。それによって、6分後くらいから身体の血流が増大する。血流が増大することによって、筋肉がほぐれて毛細血管までも血液の循環が良くなり新陳代謝が促進される。

【0008】

【実施例】 以下に、本発明にかかる寝具を、その実施例

を示した図面に基づいて詳細に説明する。

【0009】 図1は本発明による健康寝具の一つの実施例としてのシーツの一部断面図である。図1において、シーツ1を構成する布地2の表面には多孔質セラミック層3が多数の円形状に形成されている。多孔質セラミック層3には、亜鉛、アルミニウム、硫黄、イットリウム、カリウム、窒素、クロム、臭素、炭素、バナジウム、リチウム、鉄、銅、ナトリウム、ニッケル、ルビジウム、フッ素、マグネシウム、マンガン、ヨウ素、カルシウム、酸素、塩素、チタン、リン、珪素の26種類の元素のうち、少なくとも何れか一種類を含有している。

【0010】 これは、シーツ1に限らず、寝具、枕、毛布等にも適用することが可能である。

【0011】 上述した26種類のうちの、例えば亜鉛、アルミニウム、クロム、バナジウム、鉄、銅、ニッケル、マンガンの純度99.9%以上の高純度金属元素と例えば炭素との化合物を、数ミクロン以下の微粒子に粉末処理した後に熱伝導率の高い多孔質セラミックに生成し、粉末処理して電子プリントをした布地で寝具を形成する。

【0012】 人体をはじめとして、全ての生命は肉体とエネルギー体とから構成されており、そのエネルギーも物理エネルギーと非物理エネルギーがあり、この非物理エネルギーが生命の活動に大きな役割をもっている。このような非物理エネルギーを含んだエネルギーの作用で身体に対する作用を、東洋医学における経絡理論を用いて以下に概説する。

【0013】 非物理エネルギーである生体エネルギーは物理的に計測できないエネルギーとして、生命の存在に重要で不可欠なエネルギーであり、一般的には「気」、「生命エネルギー」などと理解されている。この生命エネルギーは、生体では14の経絡に対応して14種に分化して存在し、それぞれが固有の波長を持っており、常時経絡を介してエネルギーの吸収・放射を繰り返している。

【0014】 これらのことは、既に3000年以上の古来からプラナとナディとして知られ、中国においては2700年以上も前から気、経絡として臨床的体験的に知られていた。近年になって、この経絡、気の正常もしくは異常が、生命全体の健康、疾病に関係していることが次第に認識され始めてきた。今後は、生体を分子、細胞という物質の集合体としてみる西洋医学と、生体をエネルギー系としてみつ東洋医学の両面から生体を観察し、健康を維持し、疾病を治療する医学が重要になってくるといえる。

【0015】 全ての元素はそれぞれ電子エネルギーとよばれる元素固有のエネルギーを放出している。原子レベルの電子は、電気、光、熱などのエネルギーを吸収すると、より高い軌道へ移り励起状態となる。励起状態の軌道から元の軌道へ戻るときに、電子エネルギーもしくは電子波動とよばれる当該原子固有の「波動」を放出す

る。本願の寝具は、この「波動」を活用するものである。

【0016】東洋医学では、体内には血液の他に「気」が流れる道があると考えられており、12種類の経絡と任脈・督脈を合わせた14種に分けられている。各経絡上の出入口が「ツボ」となる。経絡への対応は服薬や食事では効果が無く、鍼灸・指圧導引などの外部からエネルギーを与える必要がある。

【0017】本願の寝具は、このエネルギーとして前述した「波動」を供給するものである。

【0018】元素から発せられる電子エネルギーと生体エネルギーが経絡を介して対応することを「電子共鳴」とよび、この二つのエネルギーがうまく同調した場合には「プラス共鳴」が起こり、同調しない場合には「マイナス共鳴」が起こる。結晶構造等の違いにより、エネルギーの放射される芳香・強弱に差はあるが、物質すべては、固有の電子エネルギーを発しているものであるから、生活環境などから常に電子エネルギーに影響を受けていることになる。

【0019】元素から発せられる電子エネルギーと経絡との相関関係を元素周期律表と対応させて実験したところ、以下の関係が判明した。即ち、心臓・胸・腕の病氣、神経症の肝経グループには、元素周期律表におけるVbの窒素、リン等が対応し、頭・耳・胸脇・肝・胆・腰の胆経グループには、元素周期律表におけるVIIaのマンガンを等が対応し、心臓・胸・腕の病氣、神経症の心経グループには、元素周期律表におけるIIbの亜鉛等が対応している。

【0020】そして、頭・目・耳・頸・肩・熱症の小腸経グループには、元素周期律表におけるIIaのマグネシウム、カルシウム等が対応し、胸・心臓・腕・胃腸の痛みの心包経グループには、元素周期律表におけるVIbの酸素、硫黄等が対応している。

【0021】そして、顔・耳・目・肩・腕・神経症の三焦経グループには、元素周期律表におけるVIaのクロム等が対応し、生殖・消化器・ひざ・だるいという脾経グループには、元素周期律表におけるVa、Ibのパナジウム、銅等が対応し、鼻・口・胃腸の病氣、神経症の胃経グループには、元素周期律表におけるVIIIのコバルト等

【0022】そして、肺・胸・のど・せき・たんの肺経グループには、元素周期律表におけるIVbの炭素、珪素等が対応し、顔・目・鼻・歯・発熱・腕の大腸経グループには、元素周期律表におけるIVaのチタン等が対応し、生殖・耳・泌尿・腰・のどの病氣の腎経グループには、元素周期律表におけるIIIbのアルミニウム等が対応している。

【0023】そして、腰・背・肛門の病氣、発熱の膀胱経グループには、元素周期律表におけるIIIaのイットリウム等が対応し、全経絡の主治症（体の前面）の任はい

経グループには、元素周期律表におけるVIII, VIIbの鉄、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等マンガンを等が対応し、全経絡の主治症（体の後面）の督はい経グループには、元素周期律表におけるVIII, Iaのニッケル、リチウム、ナトリウム、カリウム、ルビジウム等が対応している。

【0024】以上の対応関係を図7において一覧表示した。このように、元素周期律表との関係が存在することが明らかになるとともに、各経絡グループ内においては、元素番号の小さい元素ほど、ツボに対する強い共鳴効果が見られることが明らかになった。

【0025】以上の実験結果と理論に基づいて、本願の寝具を使用して就寝中には次のような作用効果が得られるのである。即ち、就寝中の身体の生体エネルギーと、寝具から発せられる電子エネルギーとが電子共鳴することによって、身体内における生体エネルギーが増幅される。増幅された生体エネルギーは経絡エネルギーという形で14経絡に分かれて全身へ広がる。身体全体に拡散された生体エネルギーは、体液の情報系や体内を構成する元素へ正しい情報を伝達する。これによって神経系、筋系、内分泌系などの広範囲に影響を及ぼして新陳代謝を促進し、全身の筋力上昇、産熱作用（温かくなる作用）、全身の生理機能の活性化、抗酸化作用、鮮度維持等の作用により、生体の機能の変調を矯正するのである。

【0026】このような作用で繰り返し矯正することによって、痛みやコリなどの症状を緩和し、自然治癒力を促進するのである。なお、電子エネルギーによる経絡調整機能は、エネルギーを与えるだけでなく、余分なエネルギーは除去する作用もあるため、生体内のエネルギーを常に正常な状態に保つように調整するものである。

【0027】なお、本発明による寝具の一部を試料として、電磁波放射強度特性を計測したところ、図2に示すように、綿100%の一般生地においては7ミクロンから12ミクロンの波長領域における電磁波放射強度が0.4～0.5(W*cm⁻²*str⁻¹)×10あるのに対して、0.8～1.0という顕著な差が確認された。この強度は黒体における1.0～1.1という値に準ずる強度である。

【0028】また、電磁波放射率を綿と比較した結果を図3に示した。ここにおいても、綿の場合には50%未満の領域が主であるのに対して、本発明の寝具の場合には80～90%という高率が確認された。

【0029】また、本発明による寝具の生地に手をのせて5分後の温度分布状態を計測してサーモグラフ特性を計測したところ、図4に示すように、右側の綿100%の一般生地に比較して、左側の本発明の倍には左側より温度の高い部分(H)が表れることが確認された。また、血行促進効果を測定したところ、通常は40cm/Sの速度が6分後には58～60cm/Sにアップし、血の巡りがよくなり、冷え症の改善やコリ、痛みの緩和効果が得られる。

【0030】なお、上述した電磁波の放射作用に加えて

10

20

30

40

50

遠赤外線の放射による作用も得られる。即ち、セラミック化したことにより、放射される遠赤外線は水の還元電位を下げる作用と、水のクラスターを小さくする作用があるとされている。生体に対しては、特に6ミクロンから14ミクロンの波長の遠赤外線が最も有効に生体内に浸透するといわれている。このことから、本発明の寝具は、特殊プリントの材料に高純度金属元素をセラミック化合物としたものを使用することにより、より高レベルの電子エネルギーが生体と電子共鳴しやすくなっている。

【0031】また、本実施例のシートの上で横になった状態で5分経過後に脳波を測定したところ、普通のシートの場合に比較してβ波が低くなりα波が強くなるようになり、非常に安定した脳波状態となることが確認された。

【0032】このようにして、本発明の寝具としては、シートに限らず枕、敷布団、掛け布団等が適している。例えば枕の場合には、図5に示したように、前述した布地2と同様の構成の布地10で枕の袋を構成し、その中に天然檜のチップ11を充填するとともに、傾斜面を備えたウレタンフォーム12を内装することにより、ヒノキオールによる鎮静効果と、チップによる指圧効果と、首筋や頭骨に負担がかからず安眠できる効果が得られる。

【0033】また、掛け布団の場合には、図6に示したように、内側の肌布団21と外側の布団22とがワンタッチで着脱できる二層構造となっており、肌布団21の内側の表面には、前述した布地2と同様に多孔質セラミック層が形成されている。まず、電源を使用せずに体を内側から温めるという効果が得られる。即ち、外部からの熱源や体から発せられる熱を保温して体を温めるのではなく、電子エネルギーが経絡に対応して体内の産熱作用を促進して体の中から温めるものである。

【0034】次に、血行を促進させ新陳代謝を活発にするという効果が得られる。これは、上述した産熱作用の促進により、血液の循環が良くなり、生理機能が活発になるものである。

【0035】次に、経絡調整による疾患の早期治癒効果*

*が得られる。即ち、経絡調整機能により生体エネルギーを常に正常な状態に戻そうとするので、入院中や通院中の疾患に、通常の治療と併用することにより早期治癒効果が得られるものである。次に、抗酸化作用により身体をアルカリ体質に保つという効果が得られる。即ち、体内をアルカリ性に保つのに必要なミネラル成分に、対応する電子エネルギーが正常な情報を与えることで、還元作用が促進され体内をアルカリ性に保つのである。

【0036】また、敷布団の場合には、優れた耐久性と適度の硬さを備え、気孔率90%の通気性を持っているので、床ずれや湿気によるカビを防ぐ効果が得られる。

【0037】

【発明の効果】本発明の寝具によれば、電源を使用せずに体を内側から温めるという効果と、血行を促進させ新陳代謝を活発にするという効果と、経絡調整による疾患の早期治癒効果と、抗酸化作用により身体をアルカリ体質に保つという効果が得られる。

【0038】そして、直接体内に摂取しないので安全であるとともに、睡眠中に毎日上記効果が得られるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる寝具の実施例の一部を示す斜視図である。

【図2】本発明にかかる寝具の電磁波放射強度を示す図である。

【図3】本発明にかかる寝具の電磁波放射率を示す図である。

【図4】本発明にかかる寝具のサーモグラフ特性を示す図である。

【図5】本発明による枕の構造を示す断面図である。

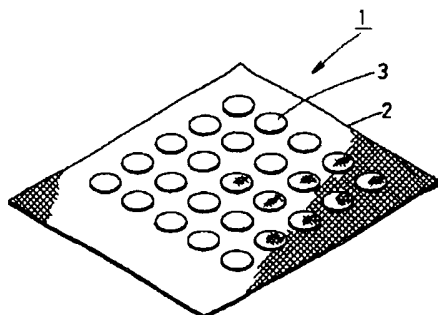
【図6】本発明による布団の構造を示す断面図である。

【図7】経絡に対応する元素を周期律表に基づいて分類した表である。

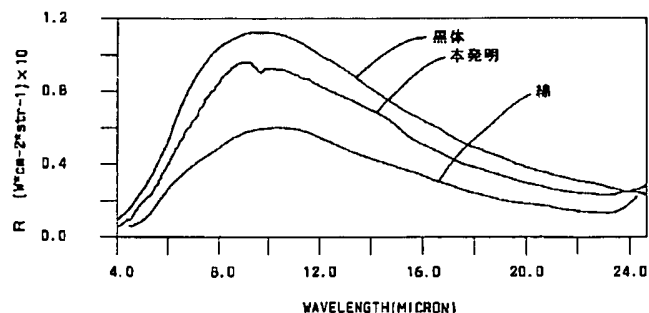
【符号の説明】

- 1 シーツ
- 2 布地
- 3 多孔質セラミック層

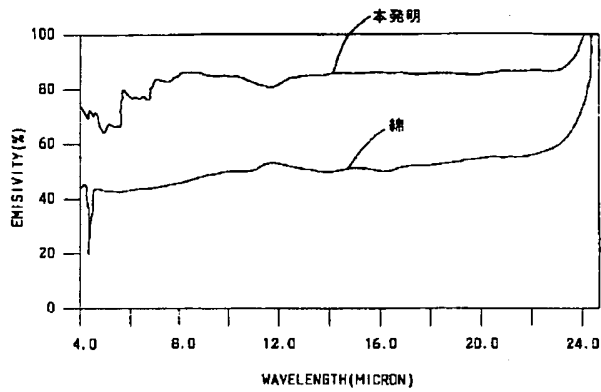
【図1】



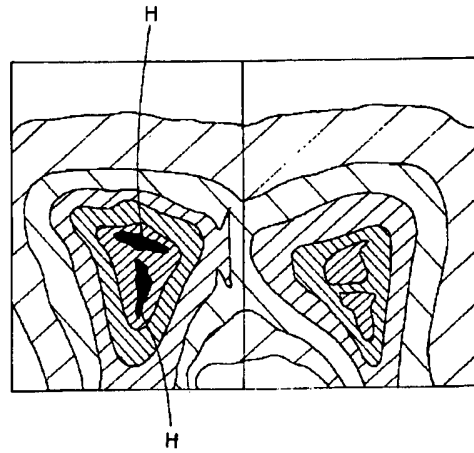
【図2】



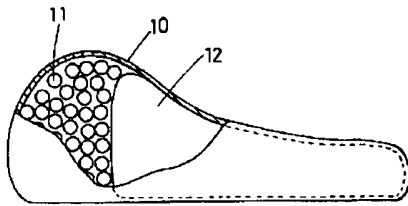
【図 3】



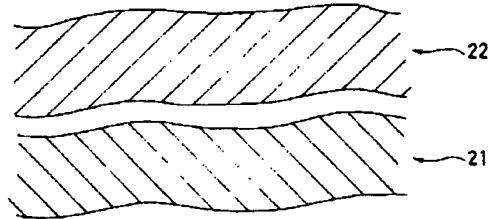
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

【元素経絡表】

元素経絡グループ	経 絡	経絡符号	対 応 す る 元 素							
肝 経グループ	肝 経	Vb	N	P	As	Sb	Bi	-	Tm	
胆 経グループ	胆 経	Va	-	-	Mn	Tc	Re	-	Pm	
心 経グループ	心 経	IIb	-	-	Zn	Cd	Hg	-	Dy	
小腸経グループ	小腸経	IIa	Be	Mg	Ca	Sr	Ba	-	-	
心包経グループ	心包経	VIb	O	S	Se	Te	Po	-	Yb	
三焦経グループ	三焦経	VIa	-	-	Cr	Mo	W	-	Nd	
脾 経グループ	脾 経	Va	-	-	V	Nb	Ta	-	Pr	
		Ib	-	-	Cu	Ag	Au	-	Tb	
胃 経グループ	胃 経	VI	-	-	Co	Rh	Ir	-	Eu	
肺 経グループ	肺 経	IVb	C	Si	Ge	Sn	Pb	-	Er	
大腸経グループ	大腸経	IVa	-	-	Ti	Zr	Hf	-	Ce	
腎 経グループ	腎 経	IIIb	B	Al	Ga	In	Tl	-	Ho	
膀胱経グループ	膀胱経	IIIa	-	-	Sc	Y	-	-	La	
任脈経グループ	任脈経	VI	-	-	Fe	Ru	Os	-	Sm	
		VIb	F	Cl	Br	I	At	-	Lu	
督脈経グループ	督脈経	VI	-	-	Ni	Pd	Pt	-	Gd	
		Ia	Li	Na	K	Rb	Cs	-	-	